

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（4月1日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の進路実現のための教育課程編成と授業のユニバーサルデザイン化を目指した組織的な授業改善を推進する。</p> <p>②ICTを活用した授業を推進する。</p>	<p>①各教科の本質に迫る深い学びが実現できるように授業改善を進める。</p> <p>②主体的・対話的な深い学びができるように授業におけるICT活用を進める。</p>	<p>①科目担当者間の情報共有を進めて「指導と評価の計画」を作成し、生徒が単元の目標、学習によって身に付く力、評価の方法などを理解し見通しを持って授業に臨むことができるようにする。</p> <p>①授業担当者間の連絡を密にして、効果的なチームティーチング授業の方法を追求する。</p> <p>②学習の動機付けや学習内容を深化させる場面でICTを有効に活用する。</p>	<p>①単元の目標を実現するための学習活動を適切に観点別に設定できたか。</p> <p>①単元の学習の中で自分の考えをまとめたり他者の考えを知り自らの考えを広げ深める機会を設定できたか。</p> <p>①生徒がチームティーチング授業の有効性を実感できたか。</p> <p>②生徒の興味関心を喚起して深い学びにつながるようなICTの活用場面を設定できたか。</p>	<p>①多くの科目で「指導と評価の計画」に基づき、自分の考えをまとめ他者の考えを知り自らの考えを広げ深める機会を設定するなど、単元の目標を実現するための学習活動を適切に観点別に設定できた。</p> <p>①「生徒による授業評価」の結果から生徒はチームティーチングの有効性を実感している様子が伺える。</p> <p>②「ICTの活用等によって、生徒が思考・判断・表現することをとおして、確かな学力を身に付けることができる授業」をテーマとして授業研究を行った。</p> <p>②「生徒による授業評価」の結果を視覚的に把握できるようにレーダーチャートにして教員に配付した。教員はこれを活用して授業改善に取り組んだ。</p>	<p>①「指導と評価の計画」を作成する際やチームティーチングの進め方を考える際に、担当者間の打ち合わせの時間を十分に確保することが難しい。教員の業務内容の精選等、働き方改革を推進して教員の本来業務である授業研究に時間をさけるように工夫していく。</p> <p>②ICTの利活用については一定の効果が見られている。授業互見の機会を増やし、さらに教員同士のスキルアップを図る。</p>	<p>①生徒による授業評価を実施し、教員間で共有していることは素晴らしい取組である。生徒の声を拾うことにより教員の発見は多いと思われるのでぜひ続けてもらいたい。</p> <p>①授業評価について教員が聞く姿勢があることが良い。</p> <p>②コロナ禍でICTの活用は加速したが、更に活用したほうが良い。生徒にとっても色々な使い方を学ぶことは必要ではないか。</p>	<p>①「生徒による授業評価」等を参考に、授業改善を進めている。チームティーチング授業における担当者間の打ち合わせの時間を十分に確保することが難しい。</p> <p>②ICTの利活用については一定の効果が見られている。生成的人工知能（生成AI）等の著しい進歩に適応できるように研修を進めていく必要がある。</p> <p>②ICTの活用が有効な場面を見極め、主体的・対話的な深い学びができるようにICT活用をさらに進めていく。</p>	
2 生徒指導 ・支援	<p>①生徒一人ひとりの支援を組織的に行っていく。</p> <p>②生徒を主体とした学校行事や生徒会活動を推進し、部活動を通して責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>①教育相談体制の充実を図り、生徒の学校生活における支援を行う。</p> <p>①交通安全指導を重点的に行う。</p> <p>②学校行事や生徒会活動では、生徒主体の企画・運営により、達成感を持てるよう支援する。部活動の活性化を通して、責任感や連帯感を涵養する。</p>	<p>①学年会・グループ会議において教職員間で情報共有を行い、必要な生徒へ支援・指導を行う。</p> <p>①交通安全教室・下校指導により交通規則の遵守を呼び掛ける。自転車運転時のヘルメット着用を呼び掛ける。</p> <p>②学校行事等で生徒のリーダーを育てることで、主体的な運営を支援する。部長会や顧問会議を定期的に開催し課題等を話し合うことで、部活動の活性化を図る。</p>	<p>①毎週の学年会・グループ会議に加え、月1回は情報の共有を行ない、当該生徒への支援・指導につなげられたか。</p> <p>①事故件数の減少、苦情件数の減少に結びつけられたか。</p> <p>②生徒が組織的、主体的に学校行事を運営することができたか。部活動の加入率や活動状況に改善は見られたか。学校行事等を通して達成感を持つことができたか。</p>	<p>①毎学年会・グループで月1回、生徒の個別の情報共有を行った。SCのみでなく、今年度よりSSWも加わり生徒支援が充実した。</p> <p>①厚木市よりヘルメットインフルエンサー任命を受け、生徒が交通安全を呼び掛ける活動ができた。</p> <p>②体育の部では、マスコット製作の幹部組織を見直すことなどで、生徒が中心となり積極的に取り組むことができた。新入生の部活動入部率は、昨年度より4%増加しており、仮入部期間の設定など、新たな取組の効果が一定程度見られた。</p>	<p>①SC・SSWからの情報・協力・具体的な対応、特に児童相談所・役所との連携は有効である。更に情報の共有を進める。サポートドックも活用する。</p> <p>①自転車は事故件数が減少しているが、乗車マナーについての苦情件数は増加している。事案の周知と生徒への注意喚起を行う。</p> <p>②体育の部は、気温が年々高くなる中での実施のため、次年度の実施内容を検討する。文化の部は、4年ぶりの食販実施であったこともあり、企画内容の調整等に課題があった。次年度に向けて、グループ会議等で改善方法を協議する。</p>	<p>①SCだけではなく、SSWの充実が良いと思う。実際に生徒支援が充実したことにより、相談数やケース会議等の回数がどのように変化したのか検証してもらいたい。</p> <p>①SSWと連携しながら、厚木西高校の動きが社会資源とつながる中で、目標を達成しつつ深めてもらいたい。</p> <p>①通学時に歩行者を追い抜く際など減速したりする相互認知のマナー向上を期待したい。</p>	<p>①学年会・グループ会議で生徒の個別の情報共有、SC・SSWからの情報・協力・具体的な対応をいただき解決に繋がるケースがあった。</p> <p>②文化の部の生徒アンケートでは、「とても積極的に取り組めた」が47%、「まあまあ積極的に取り組めた」が47%（計94%）であり、生徒が達成感を得られたことが伺えた。部活動をさらに活性化させることが課題である。</p> <p>②体育の部では熱中症による体調不良を予防するために、無理のない練習計画を立てさせるなど、当日までの体調管理にも気を付けさせる。部活動の魅力積極的に発信するとともに、新たな部・同好会の設立なども進める。</p>	

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(4月1日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導 ・支援	①生徒の自己実現に向けたキャリア教育を実践し、生徒一人ひとりの主体的な進路選択と進路実現を図る。	①生徒の主体的な活動のためICT機器の積極的活用や各種模擬試験を活用することにより、適切な進路支援を図る。 ①特別募集生徒の進路実現に向けて教育、福祉、労働各機関との連携に努める。	①情報収集や整理・分析等の「探究の過程」の場面で効果的なICT機器の活用を支援する。 ①上級学校訪問等、卒業後の進路について真剣に考える機会を提供するとともに、学習到達度テスト、実力診断テストを実施して、適切な進路支援を図る。 ①地域の企業と連携し職業について具体的に学ぶ機会を提供する。 ①特別募集生徒の1年生に対して上級学校・就職先などの進路見学を行う。2年生に対して就業体験学習(インターンシップ)を実施する。 ①外部資源を活用し幅広い学習内容を提供する。	①効果的なICT機器の活用を支援することができたか。 ①将来の進路実現に対する前向きな気持ちを持たせられたか。また、就職について、地域と連携した具体的な支援が行えたか。 ①朝学習の取組状況の改善が行えたか。 ①関係各所と連携関係構築が図れたか。生徒の実態に応じた体験的学習活動が実施できたか。	①就職先調べを始めとして、タブレットを使用した授業展開の支援ができた。 ①上級学校訪問、職業講話、模擬試験等を実施することで将来の進路実現を具体的に考える機会を提供できた。また、地域と連携してインターンシップを実施し就職の理解を深める機会を提供した。 ①朝学習ではスタディーサプリングリッシュを実施した。英検の合格実績が改善した。 ①特別募集生徒1学年に対し、近隣企業2社、上級学校2校の見学を行った。2学年に対しては、近隣企業・事業所10社に協力を得て就業体験学習を実施することができた。	①プレゼンテーションや発表の機会の増加、他教科との横断的経験の機会を増やしていきたい。 ①ポストコロナの状況を踏まえて、上級学校や地域との連携について、再出発が必要になっている。担当者同士の連絡を密にして、効果的な実施の確保につなげたい。 ①朝学習の時間帯を更に有益にするため、定期試験範囲とリンクした課題の配信を検討したい。 ①関係各所との連携はとれているが、特別募集生徒3年生で進路選択に悩んでいる生徒がいた。より良いキャリア教育の方法を検討する必要がある。	①厚木西高校は集団の支援、個人の支援もどれもきめ細やかな指導・支援をされていると改めて感じた。 ①特別募集生徒の卒業後の報告会に参加したが、在校生徒にも伝えることができるとさらに相互理解が深まると思う。このような相互理解への取組は日本全体に必要なのではないか。 ①朝学習の取組は手厚いと思う。	①効果的なICT機器の活用が一定程度できた。 ①きめ細やかな対応により、安定的な進路実績が上げられた。進路状況の社会的な変化に適切に対応していくことが今後求められている。 ①朝学習の定着と改善に向けて前向きに取り組めた。 ①関係機関と連携がとれた。障害者雇用での就職を希望する生徒の中で進路活動が遅い時期になってしまった生徒がいた。	①効果的なICT機器活用の展開に向け、情報収集に努め、適切に運用する工夫が一層求められている。 ①進路情報に敏感になり、今年度の成果と課題を踏まえて一層の具体的な創意工夫を図っていききたい。 ①定期試験と連動した、柔軟な運用の定着化が必要である。 ①障害者雇用で就職を希望する生徒に対しては1学期に職業体験を行い、生徒の就職への意識を高めていく。
4 地域等との協働	①学校の魅力を積極的に発信し、地域に信頼される学校づくりを推進する。 ②地域との協働を推進し、地域の企業研究所及び大学と連携した教育を実践する。	①本校の教育活動をより多くの方に理解してもらうための情報発信を継続的に行う。 ②コロナ禍で消えた地域との協働の場を企画し、地域の一員としての意識を向上させる。	①学校説明会や施設見学会を通じて、本校の教育活動や魅力について伝え、中学生やその保護者の信頼を得る。 ①ホームページによる発信を正確かつ迅速に行い、本校の教育活動を理解してもらえようとする。 ②地域や企業研究所及び大学との連携を図り、生徒が行事等に参加する。	①中学生やその保護者の方に本校の教育活動や魅力について理解してもらえたか。 ①ホームページによる発信、運営が適切に実施できたか。 ②地域との協働の機会を昨年度より増やすことにより、生徒が行事等に参加する場面を増やすことができたか。地域に対する理解が深まったか。	①8月・10月に開催した説明会・見学会で、多くの中学生やその保護者に学校の魅力を伝えることができた。 ①ホームページによる発信については、昨年度よりもホームページの更新頻度を増やした。 ②各グループにおいて近隣の企業や大学との連携を促し、自グループ内で企画を模索した。	①11月・12月開催予定の説明会でも、引き続き本校の魅力発信に努める。 ①ホームページに最新の情報を掲載できるように運営する。 ②地域との協働の機会を模索し、地域の理解を深められるようにする。	①学校のホームページと森の里地域のホームページとリンクをすることにより、相互の広報効果の向上が期待される。 ②地域との連携について、森の里地域の三大祭りに厚木西高校の生徒に出演してもらっている。協働の機会はいイベント参加だけではなく、準備段階からの共同作業においても連携ができるとよい。	①学校説明会の開催やホームページの更新により本校の魅力を広げることができた。 様々な方法で広報活動を行う。 ②地域との協働はようやく第一歩を踏み出すところに来ている。相互理解の深化をはかり、行事への参加を足掛かりにし、連携を図っていく。 ②双方の行事の参加や、ホームページのリンクにより、つながりを深めていく。	
5 学校管理 学校運営	①安心安全な教育環境作り推進の一環として、施設設備の適切な維持管理を図る。	①施設設備の適切な維持管理を行うとともに紙資源やエネルギー資源の節約の呼びかけを強化する。 ①防災に関する取組を通して防災意識の向上を図る。	①施設設備の適切な維持管理のための必要な改善を行ったか。また省資源、省エネルギーへの取組を工夫する。 ①防災に関する学びや避難訓練等により防災への意識を高める。	①施設設備の適切な維持管理のための必要な改善を行ったか。また省資源、省エネルギーのための取組ができたか。 ①防災に関する学びと実践ができたか。	①生徒用下駄箱の一部入替えを行った。また生徒用ロッカーを全クラス新しいものに入れ替えた。 ①エコの日ポスターで省資源・省エネを呼びかけた。全教室に壁掛け扇風機を設置し、冷房暖房の効率化を図った。 ①6月に防災訓練を実施し、防災に対する意識の向上を図った。(避難経路の確認、AEDや消火器の設置場所の確認、厚木市ハザードマップの確認等を行った)	①エコの日ポスターの掲示だけでなく、呼びかけ等の工夫をしないと一人ひとりの意識向上になかなか結びつかない。 ①11月の2回目防災訓練では避難訓練を実施したが、防災の意識づけはできたと思う。今後日頃より、避難経路を実際に確認させるとともに、安全に速やかな避難ができるよう意識づけたい。	①防災について、災害時は連絡が途絶えてしまうため、携帯の電波も届かないような時の対応を東日本のモデルケースなども参考に検討してみようか。 ①災害発生時に学校だけではなく、通学時や自宅にいる場合など様々な場面での行動についても考えてもらいたい。	①来年度も数値目標を立てた省エネの取組を継続して行いたい。 ①被災時、被災後、安否確認方法などの課題に取組み、一つひとつの課題解決に向けた方策を提案していきたい。	

